



嶺町地区  
ふれあい便り

# さかみち



季刊 第123号

編集 さかみち編集委員会 発行 嶺町地区まちづくり推進委員会 連絡先 嶺町特別出張所 Tel.3722-3111

## 地震・水害など災害に備えましょう

9月1日は防災の日です。

いざという時に自分自身と家族を守ることができるよう日頃から防災対策を行いましょう。

### ◆◆避難所の場所を確認しましょう◆◆

嶺町地区の避難所は

**東調布第一小学校 東調布中学校**

です。

※住んでいる地域や加入している自治会・町会にかかわらず避難できます。

### ◆◆家庭内備蓄をしましょう◆◆

最低でも3日分、できれば一週間程度の水・食料や生活用品を家庭内に備蓄しておきましょう。

〈備蓄の例〉

水 缶詰・レトルト食品 カセットコンロ  
携帯用トイレ コンタクトレンズ 乾電池

避難所で生活するよりも  
住み慣れた自宅が  
いちばん!



### ◆◆台風・豪雨など水害にも備えましょう◆◆

水害時も避難所に避難できます。

※嶺町小学校には避難できないため  
ご注意ください。

ご自宅の場所の浸水想定はご存じですか?  
ハザードマップや区が設置している掲示板の  
海拔表示をご確認ください。



海拔 22.7m  
Above 22.7m level

区設掲示板

## 映画『桜坂物語』上映会 実施報告



本誌5月号でお知らせしました、映画「桜坂物語」の地元上映会が5月8日(日) 嶺町特別出張所3階で行われました。この作品は嶺町地区に今住んでいる人や昔住んでいた人にとって、馴染みのある風景・沼部付近、見覚えのある神社仏閣を舞台にした人間関係ドラマでした。ゴールデンウィークの最終日でしたが近隣の方を中心に来場者数は150名を超える盛況となりました。しかし、一部音響設備が不十分で、セリフが聞き取り難い部分がありました。お詫びいたします。

作品の感想については、皆さんの嗜好で様々あると思いますが、このコロナ禍で地域のイベントが軒並み中止のなか、沢山の方のお顔が見られた事は何よりだったと思います。

編集委員長  
稲垣恵一

## おおむすび嶺町縁市場

毎月第3水曜日に、嶺町特別出張所1階ロビーにおいて「おおむすび嶺町縁市場」が開催されています。区内障がい者施設で作られたお菓子や雑貨など、魅力的な商品がたくさんそろっています。ぜひご利用ください。(主催) おおむすび連絡会)



## 地域の行事

〈白山神社祭礼〉  
日付…令和4年9月3日(土)・4日(日)  
場所…白山神社  
※神輿渡御は4日(日)に規模を縮小して実施する予定です。

〈嶺北祭礼〉  
日付…令和4年9月17日(土)・18日(日)  
場所…イオン横イベント広場 御嶽商店街通り  
〈おんたけハロウィン〉  
日付…10月29日(土)  
場所…イオン横イベント広場 御嶽商店街通り

※新型コロナウイルス感染症状況により、各行事は予定が変更になる可能性があります。

## 嶺町特別出張所管内

### 人口・世帯数

		前年 同月比
人口	男	12,202人 -111人
	女	13,847人 -59人
	計	26,049人 -170人
世帯数	13,723世帯 -42世帯	

(令和4年8月1日現在)

## 『さかみち』編集委員

- ◆編集委員長◆ 稲垣 恵一
  - ◆編集委員◆ 小野 久代
  - 加藤 玉枝 (新任)
  - 長久保 弘
  - 原田 秀子
  - 宮越 玲実 (新任)
  - 吉田 和子
  - ◆事務局◆ 嶺町特別出張所
- ※片岡 喜恵子 様は3月の編集会議をもって退任されました。ありがとうございました。



「車輪がらみて想うこと」②

嶺町町会 久保井 紀昭

伯父が品川区で家具商を営んでいて、「原動機付自転車運転許可証」をとって家具商協同組合推奨の「マルウチ」バイクで配達などをしていたので、免許を取ったのなら手伝ってとって、「マルウチ」を動かしていたとき、点検に寄った自転車店にかなりくたびれた同型の下取り車が中古で出ており、それを買いました。

小生は雨でなければ武蔵小山まで自転車通勤していたので、それをバイクで・・となりました。バイクと云っても魚河岸自転車のような自転車の三角フレームの中央に置いたエンジンからベルトで後輪を駆動する原始的なものです。メーカーは中野にあって、行けばどんな部品でも手に入るのて便利でした。買ったバイクは塗装が相当くたびれていたもので、塗り直すついでに全て分解したのが写真



(右)です。気化器と吸気管を外したら、高校生がみても流体力学的に不合理なところがあつたので、大小の丸ヤスリで吸排気系の内部をかなり修正し、サンドペーパーで滑らかに磨きました。動力性能の向上は目覚ましく、伯父の新品より速度、登坂能力が向上しました。「さかみち」的に云えば、このあたりでいちばんの急坂と思われた鶴の木の交番から曲がって三つに分かれる真中の階段がある坂を梅村工務店(当時)の前から加速すればエンジンだけで登れた

のです。新車でもエンジン全開+ペダル漕ぎが必要でした。交差点でもペダルを踏みながらクラッチを繋ぐのが普通だったのが、ペダルを踏まずに発進出来るようになりました。

メカニズムに興味があり、目覚まし時計を二つバラバラにしたのを初めとして鉄道模型、模型飛行機、カメラ、自転車、自動車・・の延長で大学は機械工学科、専攻は内燃機関でまたエンジンの分解組み立て、測定のくり返しの挙句に、自動車メーカーで教育、広報・宣伝のうえ品質改善・サービス技術、官庁対応が長く、警察学校講師、定年後は自動車整備専門学校を経て、更に退職後も整備振興会、国土交通省の自動車分解整備業調査員など自動車絡みの生活を経てきました。

趣味の面では仲間と小坪で15フィートのデインギー(小型のヨットのようなもの)を動かし、クルマではラリーに出場し、後年にはモーターグライダーを所有する仲間になり、陸海空の物を動かしてきました。動力滑空



機免許は心臓系の入院で断念し、モーターグライダーも昨年売却してクラブは解散しましたが、小型船舶の免許は保持しています。前号に掲載した写真は主催者が撮ったラリーのスタートシーン(競技には随分参加しましたが自分たちで撮れる訳もなく唯一のもの)で、このクルマは永年保持して来ましたが、とうとう諦めて専門のレストア業者に引き取ってもらい旧車展で展示したものの(写真左)で即日某出版社に購入され新車時からのナンバープレートを付けたまま将来設立される博物館に展示される模様です。(次号に続く)

### 玄関の開放(四季の彩り)

嶺町町会 長久保 裕子

我が家の玄関を開放し、「ご自由にご覧ください」と看板を立て始めたのは、今から二十年ほど前からです。しばらくは二月、三月の「お雛様」と、十一月、十二月の「クリスマス」の年二回のみでした。

一年を通して開放することになったのは、二年前からです。令和二年の二月、例年通り玄関にお雛様を飾り開放したその頃、新型コロナウイルスの影響で幼稚園や小学校が一斉に休みとなりました。すると、お子さん連れのお母さんお父さん、お爺ちゃんお婆ちゃん、毎日のようにお雛様を見に来るようになりました。お散歩しきれない風潮の中、いつしか我が家の玄関はご近所の方の「お散歩コース」となっているようでした。

そして、そろそろお雛様を片付けようと思っていた頃「次は何を飾るんですか?」と聞かれる事が多くなりました。まだコロナウイルスがおさまる気配もないので「四月と五月は五月人形を飾ってみましょう」と、知り合いからお借りした古い甲冑



や、家にあった五月人形を引っ張り出して飾ってみました。六月になっててもコロナウイルスのための規制が続いていたので、六月、七月は「七夕飾り」を飾りました。玄関に用意した短冊に自由にお願い事を書いてもらい、それを笹に飾れるようにしました。七夕を飾っていた二カ月間で、約250枚の短冊が笹にかけられていて、そのほとんどの願いは自分以外の「誰かのためのお願い事」でした。その後、八月、九月は軒下にたくさん風鈴を吊り下げて、涼やかな音を楽しめるように。十月はお月見の季節なので、月見団子や秋の草花を飾りました。



十一月、十二月は、子供たちがお待ちかねのクリスマスです。和風の玄関に洋風の飾り付けも面白く、なかなか評判も良かったです。また、お向かいのテニスコートでもたくさんイルミネーションが飾られていて子供も大人もきつとワクワクすると思います。

年が明けて一月はお正月らしく門松や生け花を置き、軒下には干し柿を吊り下げてちよっと懐かしい雰囲気を作りました。このように、令和二年二月から一年間を通して玄関を開放しただきました。



そして、昨年も前年と同様に季節ごとの飾り付けをしながら、一年間玄関を開放しました。たまに「いつもありがとう」のお手紙や、お子さんの描いた絵など嬉しいプレゼントをいただくこともありです。皆様にも少しでも喜んでいただいているのであれば、しばらく続けてみようかな...と、思っています。我が家の玄関に立ち寄ってくださった方々が、春夏秋冬、その季節を感じながら、ホッと一息つけますようにと願いながら。

★場所は観蔵院さんのそばです。